

- 問1 戦国大名が領地の生産力を高め、軍事力を強化する（富国強兵）ために行った政策の説明として、正しいものはどれですか。（2017年 大分県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 大規模な治水・灌漑工事を行って新田開発を進めるとともに、金山や銀山などの鉱山開発を積極的に行った。 | 2. 農民に「五人組」を組織させて連帯責任を負わせることで、年貢の納入を確実なものにしようとした。 | 3. 領内の商人を城下町に集めるのではなく、各地の農村に分散させて住まわせることで、地方経済の安定を図った。 | 4. キリスト教の布教を全国的に推奨することで、ヨーロッパの先進的な武器や文化を組織的に取り入れようとした。 |
|--|---|--|--|
- 問2 戦国時代、室町幕府の支配力が弱まる中で、各地の戦国大名が自らの領国内の家臣や領民を統制するために独自に定めた法律を何と呼びますか。（2020年 佐賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|------------|----------|-----------|----------|
| 1. 分国法（家法） | 2. 武家諸法度 | 3. 公事方御定書 | 4. 御成敗式目 |
|------------|----------|-----------|----------|
- 問3 戦国時代の九州において、ポルトガルやスペインとの南蛮貿易の利益を得ることを目的の一つとして、みずからキリスト教に入信し、宣教師を保護した大名を総称して何と呼びますか。（2025年 京都府公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|-------|---------|------------|
| 1. 戦国大名 | 2. 寄親 | 3. 守護大名 | 4. キリシタン大名 |
|---------|-------|---------|------------|
- 問4 豊臣秀吉による朝鮮出兵が始まった1592年（文禄の役）よりも前の時代に、世界で起こった歴史的出来事として正しいものを答えなさい。（2017年 高知県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. ポルトガルの航海者バスコ・ダ・ガマが、アフリカ大陸の喜望峰を経てインドに到達した。 | 2. フランスにおいて、市民が自由と平等を求めて蜂起し、フランス革命が起こった。 | 3. アメリカ合衆国で、奴隷制の存廃をめぐる北部と南部の対立が深まり、南北戦争が始まった。 | 4. ドイツにおいて、当時として最も民主的といわれたワイマル憲法が制定された。 |
|--|--|---|---|
- 問5 会津地方を治めた蘆名氏や伊達氏が活躍していた日本の戦国時代において、世界で同時に起こっていた出来事として最も適切なものはどれですか。（2018年 福島県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------------------|-----------------------------|-----------------------------|----------------------------|
| 1. アメリカで奴隷制をめぐる南北戦争が勃発した | 2. フランスで市民が自由と平等を求めて革命を起こした | 3. ドイツのルターが聖書に基づき教会の腐敗を批判した | 4. アラビア半島でムハンマドがイスラム教を創始した |
|--------------------------|-----------------------------|-----------------------------|----------------------------|
- 問6 1543年、九州南方の種子島に漂着した船に乗っていた人々によって、日本に初めて鉄砲が伝えられました。このとき、日本に鉄砲を伝えたのはどこの国の人々ですか。（2014年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------|----------|-----------|----------|
| 1. イギリス人 | 2. スペイン人 | 3. ポルトガル人 | 4. オランダ人 |
|----------|----------|-----------|----------|
- 問7 16世紀のポルトガルによる日本への鉄砲伝来やキリスト教の布教は、当時のヨーロッパにおける宗教的情勢と深く関わっています。カトリック諸国がアジアへの進出を強めた背景について、正しい用語を組み合わせた説明を選びなさい。（2021年 愛知県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 十字軍の遠征によってカトリックが衰退したため、新しく誕生したプロテスタントが海外貿易を主導した。 | 2. 宗教改革を弾圧したカトリック諸国が、プロテスタントと協力してアジアでのキリスト教布教を進めた。 | 3. ルネサンスの影響で誕生したプロテスタントが、カトリックを国外へ追放するために海外進出を支援した。 | 4. 宗教改革によって誕生したプロテスタントに対抗し、カトリックが海外進出を通じて勢力拡大を図った。 |
|---|--|---|--|
- 問8 戦国時代の都市についてまとめられた資料において、「有力な商人による自治的な運営が行われていたこと」「種子島に伝来した鉄砲の主要な生産拠点となったこと」「千利休などの商人がわび茶の文化を完成させたこと」という3つの特徴を持つ、現在の大阪府に位置する港町はどこですか。（2023年 滋賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|------|-------|-------|
| 1. 平戸 | 2. 堺 | 3. 長崎 | 4. 博多 |
|-------|------|-------|-------|
- 問9 16世紀のヨーロッパでは、既存の教会のあり方を批判する動きから宗教改革が起こり、新教とも呼ばれるプロテスタントが誕生しました。この宗教的な対立が、当時のポルトガルやスペインといったカトリック諸国の海外進出にどのような影響を与えたか、最も適切な説明を選びなさい。（2021年 愛知県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. カトリックとプロテスタントの両勢力が協力体制を築き、イスラム教圏を回避するための新しい航路を開拓した。 | 2. 宗教改革によってキリスト教の権威が失墜したため、ヨーロッパ諸国は布教を目的とした海外進出を完全に停止した。 | 3. プロテスタント諸国が海外進出を独占したため、カトリック諸国は布教よりも国内の防衛を優先させた。 | 4. プロテスタントの勢力拡大に直面したカトリック側が、失った勢力を回復するために海外での布教活動を強化した。 |
|--|--|--|---|
- 問10 石見銀山では16世紀前半に「灰吹法」という新しい精錬技術が導入されたことで、銀の生産量が飛躍的に増大しました。この銀が当時の社会や国際情勢に与えた影響についての説明として、最も適切なものを選びなさい。（2026年 島根県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 銀は貴重な軍事機密として厳重に管理され、江戸幕府が成立するまで海外の商人と取引されることはなかった。 | 2. 生産された銀はすべて国内の寺院や仏像の装飾に費やされ、戦国大名の信仰心を深める役割を果たした。 | 3. 銀の増産によって日本独自の通貨制度が完成し、中国から輸入されていた銅銭は一切使われなくなった。 | 4. 大量の銀が海外へ輸出されたことで、16世紀後半には日本の銀が世界の産出量の約3分の1を占めるほどになった。 |
|---|--|--|--|
- 問11 応仁の乱ののち、各地に登場した戦国大名が、自らの領内の武士や農民の行動を厳しく取り締まり、領地の安定と統治を強めるために独自に制定した法律を何といいますか。（2016年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------|--------|----------|----------|
| 1. 公事方御定書 | 2. 分国法 | 3. 御成敗式目 | 4. 武家諸法度 |
|-----------|--------|----------|----------|
- 問12 フランシスコ・ザビエルによる日本での活動に関する説明として、最も適切なものはどれか。（2017年 北海道公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|-----------------------------|
| 1. 1549年に鹿児島へ上陸し、キリスト教の布教を始めた。 | 2. 織田信長と会見し、京都での布教と南蛮寺の建設を許された。 | 3. 大名らに勧め、天正遣欧少年使節をローマへ派遣させた。 | 4. 種子島に漂着し、領主の種子島時堯に鉄砲を伝えた。 |
|--------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|-----------------------------|
- 問13 1543年にポルトガル人を乗せた船が現在の鹿児島県にある島に漂着し、日本に初めて火縄銃が伝えられました。この出来事がその後の戦国時代の戦い方に与えた影響として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 鹿児島県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|
| 1. 接近戦を防ぐために、城の石垣をあえて低く築くようになった。 | 2. 弓矢が全く使われなくなり、すべての兵士が銃を装備した。 | 3. 足軽などの歩兵による集団戦法が重視されるようになった。 | 4. 騎馬武者同士による一騎打ちが戦いの中心となった。 |
|----------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 大規模な治水・灌漑工事を行って新田開発を進めるとともに、金山や銀山などの鉱山開発を積極的に行った。	戦国大名は、戦いに必要な兵糧や資金を確保するため、農業と鉱業の振興に力を入れました。暴れ川を抑えるための治水・灌漑によって田畑を増やし、金山や銀山の開発によって得た富を軍事費や外交資金に充てました。なお、「五人組」の制度は江戸時代に確立されたものであり、戦国時代の制度ではありません。
問2	答え 1 分国法（家法）	室町幕府の権威が衰退し、守護大名が自立して戦国大名へと成長する過程で、自らの力で領国を維持・統治する必要が生じました。そこで、大名は幕府の法律に頼らず、独自の統治ルールとして分国法を制定しました。今川氏の『今川仮名目録』や武田氏の『甲州法度之次第』などがその代表例です。
問3	答え 4 キリシタン大名	九州や近畿地方の戦国大名の中には、貿易による経済的利益や、鉄砲・火薬などの軍事物資を入手するために宣教師を保護し、自らも洗礼を受ける者が現れました。このような大名はキリシタン大名と呼ばれ、代表的な人物に大友宗麟などがいます。
問4	答え 1 ポルトガルの航海者バスコ・ダ・ガマが、アフリカ大陸の喜望峰を経てインドに到達した。	日本の安土桃山時代における朝鮮出兵（1592年）と比較して、バスコ・ダ・ガマのインド航路到達は1498年（15世紀末）の出来事であり、約100年ほど早い時期に当たります。他の選択肢であるフランス革命は18世紀末、南北戦争は19世紀、ワイマール憲法の制定は20世紀の出来事であり、いずれも日本の江戸時代後期から大正時代にかけての事象です。
問5	答え 3 ドイツのルターが聖書に基づき教会の腐敗を批判した	日本の戦国時代は主に15世紀後半から16世紀にかけての時期を指します。この時期、世界ではルターによる宗教改革が始まり、キリスト教の世界に大きな変化が起きていました。南北戦争は19世紀、フランス革命は18世紀末、イスラム教の創始は7世紀の出来事であり、日本の戦国時代とは時期が異なります。
問6	答え 3 ポルトガル人	16世紀半ばの1543年、種子島に漂着した船に乗っていたポルトガル人によって鉄砲（火縄銃）がもたらされました。この出来事は、その後の日本の戦術や城郭の構造、さらには社会構造そのものを大きく変える契機となりました。当時の日本は戦国時代であり、新しい武器としての鉄砲は各地の戦国大名の間で急速に普及していきました。
問7	答え 4 宗教改革によって誕生したプロテスタントに対抗し、カトリックが海外進出を通じて勢力拡大を図った。	当時のヨーロッパでは、宗教改革の進展によってキリスト教の世界がプロテスタントとカトリックに二分されていました。特にポルトガルやスペインなどのカトリック諸国にとって、海外進出は単なる商業的な利益だけでなく、プロテスタントに対抗してカトリックの教えを世界に広めるという重要な使命を持っていました。このため、大航海時代の進出は貿易とキリスト教の布教が一体となって進められました。
問8	答え 2 堺	戦国時代の堺は、会合衆（えごうしゅう）と呼ばれる有力な商人が中心となって自治的な町運営を行っていました。堀を巡らせて自衛を行うほど経済力と組織力を持っており、鉄砲の生産や茶の湯といった文化の面でも、日本の歴史上重要な役割を果たしました。
問9	答え 4 プロテスタントの勢力拡大に直面したカトリック側が、失った勢力を回復するために海外での布教活動を強化した。	16世紀にルターやカルバンらが始めた宗教改革により、ヨーロッパではプロテスタントの勢力が拡大し、カトリック教会は大きな危機に直面しました。これに対抗するため、カトリック教会は内部改革を行うとともに、アジアやアメリカ大陸などの海外において新たな信者を獲得し、勢力を立て直そうとしました。イエズス会の設立やポルトガル・スペインによる積極的な海外進出には、このような宗教的な対抗意識と背景がありました。
問10	答え 4 大量の銀が海外へ輸出されたことで、16世紀後半には日本の銀が世界の産出量の約3分の1を占めるほどになった。	灰吹法の導入により高品質な銀の大量生産が可能になると、その銀は博多などの港を通じて中国（明）や朝鮮半島、さらには東アジアに進出していたポルトガルやスペインとの貿易に用いられました。これにより、日本は世界有数の銀産出国として世界経済に組み込まれることになりました。戦国大名が石見銀山を欲したのは、この銀を背景とした強大な経済力や武器・物資の調達能力を手に入れるためです。
問11	答え 2 分国法	室町幕府の権威が衰えた戦国時代、各地の戦国大名は実力で領地を支配する必要がありました。そこで、家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」の原則などを盛り込んだ独自の法を定め、領国内の秩序を維持しようとしました。鎌倉時代の御成敗式目や、江戸時代の武家諸法度とは制定された時代や目的が異なります。
問12	答え 1 1549年に鹿児島へ上陸し、キリスト教の布教を始めた。	ザビエルは1549年に鹿児島に上陸して布教を開始しました。織田信長と会見して京都での布教を許されたのはルイス＝フロイスらであり、少年使節の派遣を勧めたのはヴァリニャーノです。また、鉄砲を伝えたのは1543年に種子島に漂着したポルトガル人商人であり、宣教師ではありません。
問13	答え 3 足軽などの歩兵による集団戦法が重視されるようになった。	火縄銃の導入は、それまでの騎馬武者による一騎打ちを中心とした戦いから、組織化された足軽の集団による一斉射撃などの戦術へと変化させました。織田信長が長篠の戦いでこの戦術を効果的に用いたことは有名です。これにより、個人の武勇よりも組織的な運用や物資の調達能力が勝敗を左右するようになりました。